

〔Ⅱ〕 中学三年におけるグループ学習の試み

1. ね ら い

英語教育の場にグループ学習はあまりなされないものとする考え方が一般的であるように思われる。生徒のペアを作って対話練習をさせたり、数人からなるグループ内で Question-Answer 式のドリルをさせたりするようなことはあっても、それは一斉授業の中において実施されることか多く、小集団にすべての学習活動をまかせてしまうということではない。中学校の段階では英語学習かきめ細かく系統化されていることや、生徒自身の英語力が不十分であるということに由来するようである。

筆者自身も、一斉授業による指導が大部分を占めており、小集団を活用して授業を進めたという経験が乏しい。昭和53年度の中学3年生を指導するにあたってグループ学習を導入しようとした最大の動機は、

(1) 一斉授業によるマンネリ傾向の打破

であった。学年が進むにつれて教師側からの働きかけか授業の流れを作り出してゆくことか多くなり、「前時の得習→新出事項の提示と練習→新出語句の練習→教科書本文の読解→まとめ」という型にはまりやすい。この流れを変えることかできないか、と考えたのである。だからといって、すべての学習をグループによる形態にするには無理かあると考えられたので、

(2) 生徒たちの興味・関心をひきながら、生徒たちがグループとしての具体的な目標を持って学習できること

をねらって、1学期に1回の割合でグループ学習を取り入れることにしたのである。筆者は昭和52年度、高2に対する「英詩のイメージ表現」の実践において、グループ学習を導入したことかあり（本校紀要第23集参照）、この体験を生かして効果的なグループ学習を1人していったのである。

さて、グループ学習は、一斉授業と比較してどのような利点を持っているのであろうか。まず、小集団で活動すること自体の中にある一般的な特徴は、

- (3) 一斉授業においてはあまり活躍しない生徒でも、小集団の中では活動的になる機会を持つ
- (4) グループ内での協力体制か必要なことから、人間関係により効果をもたらす。
- (5) まとめ役か必要なためリーダーが育ちやすい
- (6) グループ単位での対抗意識か身がえ、よい意味

での競争心か誘発される。

(7) 以上のことか、クラス内、学年内での他の学習場面、生活場面に波及する。

など考えられよう。さらに、英語学習の面てとらえてみると、

- (8) 教師の介人か減少するため、生徒自身の英語に関する知識・能力を能動的に行使する必要性が高くなる。
- (9) お互の英語力を補い合って、さらに多く、深く学習しようとする意欲が高まる。
- (10) 自主的に問題解決するためのよい訓練となり、教科書や辞書の利用がうまくなる。
- (11) わからないことを教え合うことによって、それまでに各自の得た英語の学力がさらに確実なものとなる。
- (12) 既知のことからを総合的に活用する必要性が増すので、それらの整理・統合、さらには応用・発展ということか期待できる。

などの特徴があげられよう。

今回のグループ学習を計画・実施するにあたっては、以上にあけた(1)~(12)のようなことを念頭に置き、

- ア. グループ学習を実施する前後のつながりを考えること
- イ. 一定の時期に集中的に実施すること
- ウ. グループで学習する目標を明確にすること
- エ. グループ間の対抗意識を誘うような課題を考えること
- オ. それまでの学習を総まとめし、応用・発展できるような学習へと導くこと

を特に留意した。

2. 実践のあらまし

本校の中3では、英語の授業か前期（または後期）に週5時間、後期（または前期）に週4時間あり、比較的時間にゆとりかある。また、昭和53年度からは、指導要領改訂に伴う移行措置の関係で学習内容も減少した。こうして余裕のてきた時間をグループ学習にさくことかできたのである。各学期に実施したグループ学習の時期と課題は、次のようであった。

(1) 第一回グループ学習

一学期5月の8時間で実施。Lesson 3（使用教科書は、“New Horizon”）の主人公かそれから10年後にどうなったかを創作する課題。

(ii) 第二回グループ学習

二学期11月の8時間で実施。**Review Reading 2**の各パートをグループで分担して先生の代わりにし、クラスメイトに教える課題。

(iii) 第三回グループ学習

三学期2月の4時間で実施。グループ内の友だちが書いた自由英作文をグループで改良する課題。

グループ編成は、学期毎に編成されるホームルームでの生活班をそのまま利用した。これは、グループを新しく編成した場合に予想される時間の無駄を省くことと、他の生活場面とのつながりを考えてのことである。

3. 第一回目のグループ学習

(1) 課題と目的

Lesson 2 終了時において、1.5時間を辞書指導にあてた。これは、グループ学習において英和辞典を使用することが必要となるのと、夏季休暇に物語を読む課題を与える予定があったので、その事前指導を兼ねて行ったものである。辞書指導にまつわる意義やその指導法については、紙面の都合で今回は触れないでおくことにする。

辞書指導にひきつづき、**Lesson 3**の学習についてのプリントを作成して、グループ学習の目的と要領を生徒に徹底させた。**Lesson 3**の本文は **Benny Benson**の少年時代の物語で、**Benny**がアラスカ州旗のデザインコンクールで1位になるまでのことが描かれている。第一回目のグループ学習では、この主人公**Benny**が10年後にどのようなようになったかをグループで創作することを課題とした。創作する物語はレポート用紙1枚程度の長さとし、完成した英文をプリントにして他の生徒に配るようさせた。また、英語で表現しにくいところを絵で補えるようにするという目的とともに、創作された物語全体の流れがわかりやすくなるようにするために、物語を絵にすることを同時に課した。絵はOHP用の透明シートにかかせ、5~10枚程度とした。

この学習の目的は、英文を創作するという学習場面を設定することにより、それまでに得た英語の力を能動的に使用させるというところにあった。物語の内容を絵にさせたのは、生徒たちの英語力の限界を補うことのほかに、その作業を通じて、言語表現されたことからへともう一度立ち戻る機会を得させられると考えたからである。また逆に、物語を聞く側の生徒にとっては、視覚的な補助があるとわかりやすいので、絵画化させることにしたのである。

(2) 日程

第1時 全体で学習・**Lesson 3**の**Key Sentences**に関係した新出事項の学習

第2時 グループで **Part 1, Part 2**の学習

i) 新出単語の練習

ii) テープによる本文の聞きとりおよび読みの練習（ここまで全体）

iii) グループワーク：内容の理解……物語全体の日本語訳を第4時に配布するので、日本語に直すことにこだわらないように指示した。また、次のようなポイントを示して、考えるようにさせた。

Part 1 ——(ア)P11, 2行目の文中のitは何を指すか？

(イ)the mission homeとはどういう所か？

Part 2 ——(ア) P12, 8~9行目の文はどういう意味か？

(イ) P13, 3~4行目の文を能動態の文に直すとうなるか？

さらに、内容理解のチェックのために、教科書閉じてこみにある本文についての **questions** に答える課題も与えた。

iv) ポイントおよび **questions** についての答合わせ（全体）

v) グループ内での未解決事項、質問・疑問を記録用紙に書く。

第3時 グループで **Part 3, Part 4** の学習

(第2時と同じ要領で)

第4時 教科書の **Exercise**の答合わせ（前時の宿題）；

Part 1~4の疑問点の整理；本文全訳の配布
課題作業Ⅰ)……10年後に **Benny**がどうなったかについて考える→場面の設定、登場人物の決定

第5時 **Lesson 3** の新出単語・連語のテスト（前時に予告）

課題作業Ⅱ)……英文をどんどん出して物語にしたらててゆく；絵の構成を考え始める

第6時 課題作業Ⅲ)……英文を完成してプリントにする準備に入っている；OHPシートに絵を描く

第7時 全体で学習・グループ発表までの時間かせぎと、未解決事項の指導・解説のために、**Lesson 3**の総復習を実施

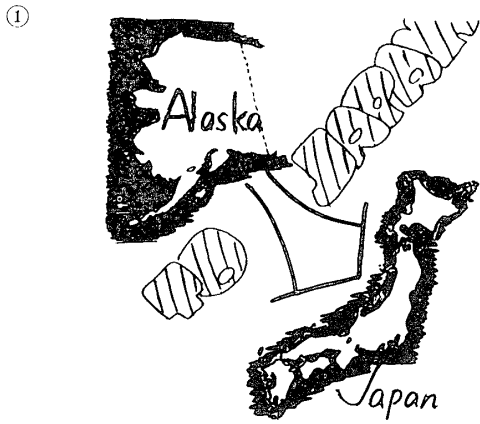
第8時 グループ発表

i) 各グループの創作した物語のプリント（物語+新出語句）配布

ii) 各グループの発表（1グループ5~6分×7グループ）

①プリントを見ながら聞く

< B組1班の作品 : Benny >



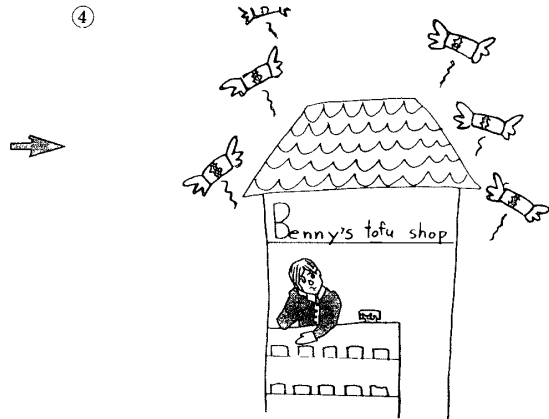
Benny got first prize, so he traveled around Japan. He arrived at Tokyo and he stayed at Damaru Hotel.



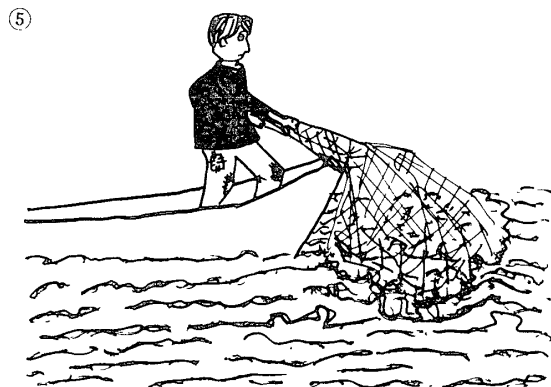
One day he had miso soup and boiled rice. He ate the miso soup and he was shocked. "Oh, what is this?" he cried and cried. Right away he asked the boy. "What is this?" The boy said, "It is tofu." "Oh, its name is tofu? I want to eat it more and I want to learn how to make tofu," Benny said. After that he learned how to make tofu. And he enjoyed his travel around Japan.



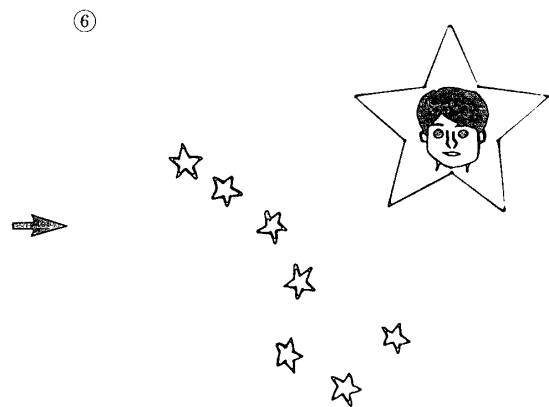
Several days later, he came back to Alaska and he couldn't forget the taste of tofu. He opened a tofu shop.



But people there didn't come to buy tofu and he was in trouble. He couldn't keep his shop any more. He threw away his dream.



He became a fisherman. But he won't happily. Because he couldn't make enough money. One day he went to the sea to catch a lot of fish as usual. The night came, but he didn't come back.



People say that Benny has become The North Star and he is watching us.

②プリントを見ないで、OHPの絵を見ながら
2回聞く

iii) 相互評価・よかったと思う上位3つのグループ名を1～3番の順に書く

(3) 学習の成果

2クラス14グループの作品の中から特にユニークなものを選んで示すことにする。

<A組1班の作品：ベニーの10年後—英文のみ>

He became a fisherman, but he couldn't catch any fish at all.

One day in summer he was fishing at sea
Just then! Jaws came from the south. He was shocked, and he said to himself.

"I will catch that and I will eat that!" He fought against with Jaws for a long time, and he won a battle. Then he cooked it on his ship and ate it.

After he had dinner he said, "I am a champion."

Soon Oruka came! He was shocked again.

He couldn't win the battle, but they played janken and Acchimuite-hoi. He was defeated. Oruka ate him.

There was a beautiful girl. Her name was Patty. She and he were married and they lived happily in Oruka.

<B組5班の作品：Bennyの10年後—英文のみ>

Benny finished school. He became a fisherman. One day he went to the sea to catch fish with other fishermen. Their ship was lost at sea. Because then a storm came. At that time a flying saucer was flying low in the sky. He was shocked. He was taken by the flying saucer.

They arrived at one of the stars. The star's name was Tsukuekandarw. The star was a bad star.

There was a very beautiful lady from the Earth. They didn't know each other. Benny thought, "She is the most beautiful lady of all!" Her name was Sachiko. She was a Japanese girl. They were married.

Soon, the Space War began.

Benny forgot the earth. Because they were very happy there. He betrayed the earth. And he came to attack the earth. At that time he saw the Alaskan flag. He was shocked and said to himself, "I was very bad!"

He and his wife Sachiko ran away to the earth. They lived very happily in Alaska. Benny became a fisherman again.

4. 第二回目のグループ学習

(1) 課題と目的

Lesson 10 終了後、Review Reading 2 の学習について、次のような課題を与えた。つまり、Part 1～4の各パートを、あらかじめグループの担当を決め、グループ学習したのちに、他の生徒に先生の代わりに教えるというものであった。

教材は Review Reading のため、文型や文法上の新出事項はなく、生徒たちで学習できるものである。英文の物語を自分たちの力だけで読解し、それまでの知識・能力を総合的に使う学習場面を設定したわけである。しかも、学習内容を仲間教えるという活動がセットされているので、単に表面的な理解にとどまることなく、文構造の分析、学習ポイントの発見と整理、学習手順の工夫など、多面的な学習活動を期待できる。生徒たちにとって「教える」という経験が、その後の自分自身の学習に貴重な示唆を与えるであろうということ、および、一斉授業へのはね返りということも期待したのである。

(2) 日程

第1時 グループ学習の目的・要領について解説。

本課全体の聞きとり（ここまで全体）

グループ学習(I)…… Part 1～4のあらすじをつかむ、疑問点の整理

第2時 グループ学習(II)……分担パートの徹底的研究、学習のポイント（＝教える場合の重点項目）を選び出す、内容に関するquestionsを作る。

第3時 グループ学習(III)…… questions とその答えを完成する、教える場合の順序と方法およびグループ内の役割の決定、必要な教具（フラッシュカード、OHPシート、プリントなど）を作る。

第4時 各グループによる指導

1時間に2グループ実施。1グループ15～20分の持ち時間、他の者はグループの教え方について、教えられる立場から相互評価をする（評価の用紙およびその結果を次ページに示す）。なお、この時間に出された疑問点や未解決事項については、教師の方から答えを出さずに家で考えてくるように指示した。ただし、完全なまちがいやその場で解決した方がよいと思われる点は、その時間内に指摘した。

第8時 全体で総得習（教師による指導）

(3) グループによる指導の例

○A組7班： Part 1 分担

<相互評価の用紙>

中3 「英語グループ学習(その2)」 ()組(男・女) ()班

◎各班による授業を受けて A～Eの項目について1～5の尺度で評価してください。

A 指導の順序・まとめり
 B 指導上の工夫
 C 指導の技術(声, 用具の使い方など)
 D わかりやすさ
 E 班員の協力・態度

5 4 3 2 1
 とても よい ふつう よく とても
 よい ない 悪い

授業	分担・班名	評価項目					合計
		A	B	C	D	E	
1回目	Part 1 ()班						
	2 ()班						
	3 ()班						
	4 ()班						
2回目	Part 1 ()班						
	2 ()班						
	3 ()班						

各班の指導について「特によかった」と思ったことかあったら書いてください。

<評価の結果>

[A組]

順位	生徒の評価 (総得点)	教師の評価 (得点)
1	3班 (543点)	3班 (19.5点)
2	7班 (507点)	4班 (16.5点)
3	6班 (483点)	7班 (16.0点)
4	4班 (479点)	6班 (15.5点)
5	5班 (409点)	5班 (13.5点)
6	2班 ()点	2班 (12.5点)
7	1班 (367点)	1班 (11.5点)

[B組]

順位	生徒の評価 (総得点)	教師の評価 (得点)
1	1班 (582点)	1班 (19.0点)
2	3班 (453点)	2班 (17.5点)
3	5班 (445点)	5班 (15.5点)
4	4班 (441点)	4班 (15.0点)
5	2班 (402点)	3班 (14.5点)
6	6班 (359点)	7班 (14.0点)
7	7班 (306点)	6班 (13.0点)

1. 新出単語の練習 (テープとフラッシュカード使用)
 2. 本文の聞きとり (テープ使用)
 3. 個人にあてて本文を読ませる
 4. ポイントを5つにしほって考えさせる
 - ア. 1～2行目 not very many years ago の意味
 - イ. 3行目 began to complain の不定詞の用法
 - ウ. 4行目 carry off の意味
 - エ. 7～8行目の文の意味
 - オ. 8～9行目の文を, 実際に言ったことは書くかどうか?
 5. Question-Answer
 6. 応用練習 英作文2題
 7. 話の要約 OHPで絵を見せて本文を聞かせる
- ◎A組4班 Part 4 分担
1. 新出単語の練習 (テープとフラッシュカード使用)
 2. 本文の聞きとり (テープ使用)
 3. 本文の読解
 4. プリント※で解説と練習 (このプリントをそのまま示すことにする 次のページ)
- ◎B組1班 Part 3 分担
1. 単語・連語の練習 (OHP 使用)
 - (1) 英語だけ見せて (2) 日本語だけ見せて
 2. 本文の聞きとりと読みの練習
 - (1) 2人て分担して範読 (2) くり返して読ませる
 3. 本文の意味・日本語訳を求める
 4. ポイントの指導
 - ア. 1行目の itsは何のことか?
 - イ. 7～8行目の文を能動態にかえる問題
 - ウ. 関係代名詞について いくつあるか? 何行目
5. 第三回目のグループ学習
- (1)課題と目的
- 冬休みの宿題として, “My School Life” というタイトルで, 3年間の中学校生活の中で一番思い出に残っているエピソードを題材にして, 英作文を書いてくことにさせた (レポート用紙に1行おきに1枚以上)。プリント学習 (3年間の総復習 1～2月の12時間を使って実施) が終了するまでに, この英作文を教師が評価した。その際, つづりや文法上の誤り, 表現が不十分なものなどに赤で下線を施すとともに, 優秀な作品, グループで改良するのによい作品, 教師が改良して見本として示すための作品を選んでいった。プリン

<A組4班の使用したプリント>

おもしろい! はあどふあう。

♡おもしろ♡

司会 7-5th
記録 4-5th
ごき 2-5th
注 E1Eくん
U1h すきとん

注意

1) by killing all the mountain lions.

(動名詞)

前置詞 + 名詞または ~ing 形
[その他の例はもんE1のつきにかけあふ LOOK!]

♡前置詞のあとには、ふつう名詞や代名詞がくけど、動詞のときもあるのよ。そのときは ~ing 形(動名詞)にしてください。わがた !!?

2) There were soon so many deer that they ate up

all the wild roses.

★ so ~ that の用法

日本語に直して?.... (

3) Next they began to eat young trees to the farmers

which were important

主格

Which E1の省略は?
Which + be 動詞の省略は?

4) The deer had nothing to eat.

[例文はもんE1のつき]

↑ 何もない

何用法か [] 的用法の不定詞

nothing to ~ ⇒ not ... anything to do 表せるよ!

問題

(し)おもしろ♡

- ① What did the United States government once tried to ?
- ② Were the mountain lions killed ?
- ③ What did the mountain lions begin to next ?
- ④ Did the deer have anything to eat ?

♡前置詞 + 名詞 or 動名詞

この時のあとに to ~ (不定詞) をつけると

♡ nothing + to ~

• He is fond of roses. (名詞)

• He is fond of swimming. (動名詞)

• She was very fond of dancing. 彼女はダンスが好きでして

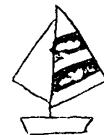
• She could think of nothing to draw.

• She could not think of anything to draw.

彼女はなにを何おもしろいことができませんでした。

• I didn't have anything to drink.

• []
♡ nothing ...



みんな何かを...?
4班の苦心のていふ
何かを...
思ふか?
じゃあまたね~♡



ト学習が完了した時点で、生徒のオリジナルと教師によって改良された作品をプリントで示し、その要領でグループ毎に友だちの作品を改良するのが今回の課題であることを説明した。

すでに書かれた英文を直すという作業はきわめて困難なもので、われわれ教師も自由英作文の添削となるとなかなか行いくのが現状である。その理由の1つには、書いた本人か一体とういう内容を表現したいと考えたのか的確につかめない、ということがある。この試みにおいては、5～6人のグループ内のだれか1人の作品を取り上げたのであるが、それは、書いた本人に直接どういことを表現したかったのかを確かめられるようにすることと、さらに、書かれていることから戻りながら内容をふくらませることも可能であると考えたからである。

生徒たちの3年間の学習内容ではどうしても表現しきれないことがあるので、和英辞典・英和辞典を活用させた。しかし、新しい語法や未習の句型・文法事項を使うことは極力さけるように指示をした。この課題の下で、生徒たちは書かれた英文をどんな基準で、どのように直したり、改良したりするのかという問題事態に追い込まれるわけで、各自の英語に関する知識を出しあってそれまでの学習内容を総合的に復習しながらチェックしあうと同時に、英語を創造的に使用する機会を得ることになる。グループで行うことは、みずからの言語使用（読むこと、書くこと）の良否を友だちに評価してもらうことにもなり、特殊な形態ではあるが、英語を相互伝達の道具として使う場面に置かれるのである。

a

<オリジナル>

My School Life (by M. K.)

I always get up at seven thirty. It isn't too late. Because it's taks about ten minutes from my house to my school. I always get school just before the bell.

By the way I have pleasant friends in the school. Their name for example was Yasuoka, senda and Uchino. They'er pleasant and very good friend. Successively I have a lot of good teacher. For example our homeroom teacher Miyata is young, handsome, gentleman and he teach English very well. And other teacher's are good teather's too. And my parents are very very good.

I'm enclosed by good friend, good teachers and good parents.

So I'm very very happy.

(2) 日程

第1時 見本のプリントで改良する要領を全体で学習。プリントには題材の違うもの（文化祭、部活動、林間学校、日常生活など）を選んだので、グループで改良する際のヒント（特に単語面、語法面での）にもなっている。

改良する作品のコピーをもらって、グループ毎に最初の読み合わせを行う。

第2時 グループで、読み合わせ、内容・意図についての質疑応答、文法的ミスおよびつつりミスの訂正作業を行う。

第3時 グループで、改良作業、内容をふくらませる作業を行う。教師は各グループをまわり、オリジナルに施された赤線について質問のあるグループ（前時の活動報告に示されている）と話し合ったりする。

(3)学習の成果

各グループが改良した作品は、教師が改良してプリントで示した作品および優れた作品（書いた生徒自身か教師からの適当なアドバイスを経て自分で改良したもの）とともに、“Our School Life”という20数ページほどの英文集としてまとめられ、英文集は卒業式前日に全員に配布された。その中から、㊤教師が改良した作品1点、㊦グループで改良した作品2点、㊧優れた作品1点をここに報告しておく。㊤および㊦については、それぞれのオリジナルと改良後の英文を左右に対照して示すことにする。オリジナルはつつりのミスなど原文のままにしてある。ただし、パラグラフについては教師の考えによった。

<教師が改良したもの>

My School Life --- My Friends, My Teachers and My Parents

I get up at seven thirty every morning. It isn't too late, because it takes only ten minutes or so from my house to my school. I always get to school just before the bell rings.

By the way, I have some pleasant friends at school. Their names, for example, are Yasuoka, Senda and Uchino. They're interesting and very good friends of mine.

I also have a lot of good teachers. For example, our homeroom teacher Mr. Miyata is a young, handsome gentleman and teaches English very well. And the other teachers are good teachers, too.

Any my parents are very, very good.

There are good friends, good teachers and good parents all around me. How happy I am!

bの1

<オリジナル>

Chorus Contest (by Y. M.)

One day in October a culture festival was held. I tell you about it.

We belong to 3A class. We began to practice the chorus in July. It was very hot at that time in Nagoya. So everyone worked on it very hard. But it couldn't good. There was no help for us. The conductor and the accompanist were in trouble. They wanted to victory. Such days went on all the while.

So we were taught the chorus by a certain person. The man was very severe with his pupils, but he was kind. We practiced the chorus every day. One of us said, "I am too tired to sing a song." (Mr. Miyata is a teacher in charge of our class.) He said, "Work harder."

The chorus has come at last. It's our turn now. We were sing a song in a loud voice, and looked serious. At last a judge announced. "3A class," he said. We were very glad to hear that, and forget tired of till now.

The contest was end.

<A組4班が改良したもの>

Chorus Contest

One day in October the culture festival was held. I will tell you about it.

We belong to 3A class. We began to sing together in July. It was very hot at that time in Nagoya. So everyone worked on it very hard. But we couldn't sing well. There was no help for us. The conductor and the pianist were in trouble. They wanted to get first prize! Such days went on for a long time.

So we were taught how to sing by a certain person. The man was very severe with his pupils, but he was kind. We practiced singing every day. One of us said, "I am too tired to sing a song." (Mr. Miyata is a teacher in charge of our class.) He said, "Work hader."

The chorus contest came at last. It was our turn now. We sang a song in a loud voice, and looked serious. At last a judge announced. "3A class," he said. We were very glad to hear that, and forget tired of till now.

The contest is over.

bの2

<オリジナル>

My School Life (by C. N.)

My name is Chieko Nakatsukasa. I am fifteen years old. I am in the ninth grade. I leave for school at eight walk to school every day. But I sometimes late.

I like my school very much. I play badminton after school. I like it very much, too. But I can do it only sometimes. I was very sorry when I can do it only sometimes.

Our class teacher is Mr. Tomita. He is mathematics teacher, and he is very interesting. He always tells us to study hard. I think study hard, too.

I have a some wounderful friends. They are very interesting, and They are very kind. I am enjoying my school life. Because my friend is wounderful.

<B組1班が改良したもの>

My Happy School Life

My name is Chieko Nakatsukasa. I am fifteen years old. I am in the ninth grade. I leave for school at eight and walk to school every morning. But I am sometimes late for school.

For many reasons I like my school very much. For example, I play badminton after school. I like it very much. So I want to play it every day. But I can't. So I feel regret for my conduct.

Our teacher is Mr. Tomita. He is very short, and his legs are very short, too. He is a mathematics theacer, and he is very interesting. He looked very young when we were in the seventh grade. But now he looks old. Because he becomes bold. He always tells us about his wife, and their cat and their goldfish.

I have some good friends. They are very funny. One of their names Kimiko Shimizu. She is a special friend. She always knocks us on head. So we are much afraid of his power. But I am enjoying my school life.

c

<書いた本人が改良したもの>

It Was About One Year Ago (by S. Y.)

My school life is very funny. Because I have some good friends. I have a lot of funny stories. But if I write all stories, I will use many pieces of paper and many pencils. So I am going to write a story which happened about one year ago.

It was a very fine day. I was standing on the top of the school building with a friend of mine. We were talking and looking at the beautiful sky and scenery.

Then she said, "Let's play." I was surprised and asked, "What will you do?" She said to me, "Let's throw our slippers like an airplane from here to over there." "All right," I said. "One, two, three!" The slippers flew over there. A few minutes later, we found some students were looking through the window and laughing loudly. But we were playing. They my slippers flew over the fence. They fell down to the ground. Everyone who was looking at this scenery laughed and laughed.

I said to my friend. "May I stop this game? I am too tired to play this game any more." "All right. I thought so," she answered. I went down and picked up my slippers.

I made up my mind I will never do such a foolish thing.

6. 実践をふり返って

この実践の最大のねらいは「一斉授業だけからくるマンネリ傾向の克服」であった。各学期に1回ずつグループ学習を取り入れたことも、このねらいを実現するためであった。実際にグループ学習中の生徒を観察していると、生徒たちか、いつもとは違い、仲間どうして楽しく過ごしているのか一番印象に残った。ただ、「楽しく過ごす」だけでなく、その楽しい雰囲気の中から「強制されない自主的で活発な学習」が生まれたかどうかは疑わしい。中には、他人まかせの態度で英語の時間を過ごしただけの生徒が少数なからいたことも事実である。

グループ学習の成果については、すでにその一端を紹介したか、学習に参加した生徒たちの反応をつかむため、また、自分なりの反省をさせるために、グループ学習が終わるたびにアンケートを実施した。それぞれのアンケートで共通してたずねた3つの項目について、整理して示すことにする。また、3回のグループ学習について、よかったものから順位をつけさせた。その結果を、1位に選ばれたら3点、2位であれば2点、3位であれば1点として算出した総得点とも示す。

	一位に選んだ生徒の数	二位に選んだ生徒の数	三位に選んだ生徒の数	総得点
第一回目	36人	16人	23人	163点
第二回目	27人	35人	13人	164点
第三回目	12人	24人	39人	123点

☆1
<アンケートの結果>

グループ学習 アンケート項目	第一回目 (物語の 創作)	第二回目 (教えあう 学習)	第三回目 (英作文の 改良)	
① 今回のグループ学習は ……				
ア とてもよかった	4%	3%	0%	
イ よかった	31%	36%	35%	
ウ ふつう	36%	34%	42%	
エ よくなかった	18%	25%	22%	
オ とても悪かった	11%	3%	1%	
② 自分は班の中で ……				
ア とても活躍した	5%	8%	3%	
イ 活躍したほう	20%	15%	14%	
ウ 他の人と同じ	54%	59%	55%	
エ 活躍しなかったほう	20%	18%	26%	
オ 協力しなかった	1%	0%	3%	
③ また英語の授業でグループ学習をしたいと思いませんか				
ア 思う	21%	21%	☆2 19%	☆3 45%
イ どちらでもよい	45%	55%	58%	49%
ウ 思わない	34%	22%	22%	5%

(注) ※1 回答者は在籍80名の内、それぞれ80名、76名、77名であった。

※2 「高校に入ってから、……」

※3 「中学校の英語の授業で、これまでのようなグループ学習をやったほうが良いと思いますか？」

3つのグループ学習の内容による差はほとんど見られないが、順位の結果から、「英作文の改良」のグループ学習があまり人気なかったということがわかる。これは、英作文を直す作業が生徒にとっては困難なタイプのものであったこと、物語の創作ではかなり自由な発想で活動できたこと、英語を教えるという経験がめずらしかったこと、などの理由によるものと推定できる。

いずれにせよ、以上のアンケート結果からみるかぎりでは、グループ学習の試みが教師の期待したように

は成功しなかったようである。ただ、注※3の数字をみると、生徒なりに、一斉授業だけでなく適切なグループ学習を適当な時期に行ったほうがよいと判断していることがうかがえる。少なくとも、グループ学習を否定している者はごくわずか（5%）であるので、これを支えに、今後も生徒たちの興味をさそうような課題を工夫して、しかも「自主的で活発な学習活動」へとつながってゆくようなグループ学習を仕組んでゆきたいと考えている。

（宮 田 学）